

茨城県東海村・日本原子力研究開発機構を訪問

2019年度第1回拡大女性懇談会を開催

KAKKINは2019年10月16日、茨城県東海村の日本原子力研究開発機構(JAEA)核燃料サイクル工学研究所で17名が参加して2019年度第1回拡大女性懇談会を開催した。

冒頭、日本原子力研究開発労働組合(原子力ユニオン)からJAEAの業務概要と原子力ユニオンの活動紹介の説明を受けた後、同研究所総務・共生課の^{あやめ}菫蒲順子氏より地域へのコミュニケーション活動についての講演があった。



このコミュニケーション活動を行う広報チームの愛称は、地元の特産品干し芋にちなんで「スイートポテト」。地元の保育園や小中学校、地域の方々等からの依頼に基づき出張授業や地域イベントへの出展を通じて、次世代を担う子供たちに放射線・原子力に関する科学的根拠に基づいた情報を分かりやすく伝えているとのことであった。講演を聞いて、スイートポテトが発足から23年間継続して活動してきた中で、いろいろな

工夫を凝らして地道に活動を充実させてきていることがたいへん印象的であった。

続いて拡大女性懇談会を開催し、これまでの女性懇談会の活動をふまえて、今後に向けての意見交換を行った。

最後にプルトニウム・ウラン混合酸化物燃料(MOX燃料)の製造技術開発を行う施設を見学した。施設内部の見学に加え、実物大の模擬燃料や動画が用いられた説明であった。施設は、厳重なセキュリティのもと、わずかな被ばくもしないように様々な放射線防護に係る設備・装置が備えられていた。また、人が直接行う作業では、細心の注意を払って行なわれていることがよくわかった。



今回の訪問先は名前の通り研究所であり内容は専門的であったが、原子力の平和利用の一端をじかに見ることができ貴重な体験になった。